

宮古の風



～ 新しい風は東から ～

宮古教育事務所管内の多くの学校にお邪魔する中で、先生方が前向きに楽しみながら教育活動をされている姿や、子どもたちがポジティブに活動している姿からたくさん元気をいただいています（本当に感謝です）。

文責：平澤

令和6年度 県学調 宮古教育事務所管内の結果をお知らせします

児童生徒質問紙調査結果（Miyako Target 7にかかわって）

指標	A 県学調 R5 事務所平均		B 全国学調 R6 事務所平均		C 県学調（今回） R6 事務所平均		県学調（目標） R6 事務所目標値		○県学調・全国学調の質問項目は同じもの。R5 県学調と R6 全国学調（AとB）の比較は、同一集団の比較。○R5 県学調と R6 県学調（AとC）の比較は、集団は1学年異なるが、同時期の児童・生徒の比較。
	小	中	小	中	小	中	小	中	
①将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	87.0	75.0	87.1	71.0	89.2	75.4	87.4	75.4	
②意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	78.0	76.0	84.5	85.4	82.2	83.1	82.5	79.2	
③授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	79.0	84.0	90.4	90.3	83.6	88.7	83.0	84.7	
④自己肯定感をもつ児童生徒の割合	70.0	73.0	82.8	77.8	77.8	78.0	74.0	75.0	
⑤学校が楽しいと思う（学校に満足している）児童生徒の割合	83.0	85.0	86.7	83.0	88.2	84.5	88.8	87.0	

- (1) ②、③、④の割合は、小・中学校両方において昨年度を大きく上回っています（事務所目標値を達成しています）。
- (2) ①は、事務所目標値を達成しています。
- (3) 全体的に昨年度よりも高い平均値を示しています。引き続き、児童生徒が学びの面白さを実感できるような授業設計と、達成感や「やればできる」という感覚を得られるような教育活動の推進について、よろしくお願いいたします。

県学調結果（宮古教育事務所管内） 児童生徒がつまずきやすい問題（正答率 30%以下）※中学校は裏面【小学校】

問題番号	問題で問う力	正答率(%)	無回答(%)	出題形式
小5 国語				
2	意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をする。		25.5	22 記述
18	登場人物の心情について、描写を基に捉えて読む。		28.3	16 記述
21	目的に応じて、必要な情報を見付けて読む。		26.4	28 記述
小5 算数				
5	2つのものの基準量と比較量から割合を求めて、ねだんがより高くなった弁当はどちらかを説明することができる。		24.0	7 記述
9	示された除法の式の意味を理解している。		24.2	4 選択
12	四角形に2本の対角線をひいたときの、その対角線の交わり方がわかる。		22.4	1 記述
13	二次元の表に整理して、マスにあてはまる数を求めることができる。		6.8	8 記述
18	ともなって変わる2つの数量の関係に着目し、代金を求める式の意味を説明することができる。		22.4	22 記述
21	2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を説明することができる。		15.8	6 記述
25	直方体を組み合わせた形の体積が等しくなる理由を説明することができる。		23.8	36 記述

- (1) 記述式問題において「無回答」が多い傾向あり（後半の問題に多く出現）。
→ 自分の考えを自分なりの言葉で表現（記述）する学びの機会の確保、ある程度長い問題文などを正確に読み取る機会の確保、すでに解くことができる問題をより少ない所要時間で解く機会の確保（記述に費やす時間を増やす）などのアプローチが考えられます。
- (2) 資質・能力に結びつく家庭学習 → 児童生徒が目的意識をもって取り組めるようにすることが有効と考えられます。
- (3) 「テストを解く力」は近い目標のために、「問題解決や探究を自分（たち）で進められる力」は遠い目標のために「どちらも大切である」ことを、折にふれて子どもたちと共有し、それぞれに対するアプローチを児童生徒、先生方で一緒に検討しながら取組を進めていくことが大切です。

【中学校】

問題番号	問題で問う力	学習指導要領との関連	正答率 (%)	無回答 (%)	出題形式
中2 英語					
10	日常的な話題について、短い文章の概要(文章全体の大きな内容)を捉えることができるかどうかをみる。	読むことイ		21.5	2 選択
11	日常的な話題について、短い文章の要点(書き手の最も伝えたい内容)を捉えることができるかどうかをみる。	読むことウ		23.4	1 選択
12	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる。	読むこと		26.3	1 選択
15	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。	書くことウ		27.8	36 記述
16	動名詞を含む文の語順を理解し、正確に書くことができるかどうかをみる。	書くこと		19.6	4 記述
19	過去進行形の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる。	書くこと		27.3	15 記述
21	不定詞(形容詞的用法)を含む文を正確に書くことができるかどうかをみる。	書くこと		19.2	21 記述
23	おすすめの場所や事象について、具体的な説明や理由を書くことができるかどうかをみる。	書くことイ		28.5	47 記述
24	テーマに沿って、3文以上のまとまりのある英文を書くことができるかどうかをみる。	書くことイ		16.6	48 記述
中2 数学					
3	具体的な場面で、一次方程式をつくり、適切な解の吟味を行い、一次方程式の解をそのまま答えとはいえない理由を正しく説明することができる。	1年A(3)イ(イ)		21.7	33 記述
6	目的に応じて等式を変形することができる。	2年A(1)ア(エ)		25.6	33 記述
14	直角二等辺三角形を別の直角二等辺三角形に重ね合わせるために、どの点を中心として何度回転移動させればよいかを説明することができる。	1年B(1)イ(イ)		13.8	21 記述
18	おうぎ形の弧の長さを求めることができる。	1年B(2)ア(イ)		12.8	35 記述
19	コンパスで120°を作図することができた理由を、正三角形であることを指摘することで説明することができる。	1年B(1)イ(ア)		7.2	59 記述
23	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	1年D(1)イ(ア)		26.7	39 記述
24	百の位と一の位の数を入れかえた数の差が1981になる3けたの自然数を求めることができる。	2年A(1)イ(ア)		19.8	52 記述
25	発見的に捉え、百の位と十の位の数を入れかえた数の差を予想し、それが成り立つことを説明することができる。	2年A(1)イ(ア)		17.2	58 記述

地区別体力向上担当者研修会について

9月30日(月)、管内各中学校から1名悉皆参加で開催しました。はじめに、岩手県教育委員会事務局保健体育課 松村毅 主任指導主事より「本県の体力向上の現状と取組の方向性について」の説明がありました。次に、中京大学スポーツ健康学科 中野貴博教授よりオンラインで講義をしていただきました。最後に、宮古管内の体力の状況について共有し、「体力向上取組前半の振り返りと後半取組の検討」について協議を行いました。各校の取組について参加された先生方とたくさん共有しました。



【中野教授の講義から】
 ○子供の体力・運動能力は再び低下局面にある
 ○特に、走能力、投能力の低下が著しい
 ○運動好きの比率は上がっているから、このニーズにこたえる取組が重要
 ○運動動作や身体活動量も低下、生活習慣とも密接に関係
 ○生活習慣は可逆的。絶え間ない取組が重要
 ○スクリーンタイムは顕著に増加。今後、様々な生活習慣に影響も。適切なルールが必要。

(研修者の感想より)
 ・運動習慣と生活の関わりについて深く知ることができた。普段、運動や体力にフォーカスしがちだが、その土台となる生活が大事なのだと改めて感じた。子どもの周りにいる大人が、どういう意識でいるかということも重要なのだと感じた。
 ・今後の取組について具体的にイメージすることができた。カードだけにこだわらず学習も含め、学校全体で「60(ロクマル)プラスプロジェクト」が推進できる体制を作っていきたい。

地区別授業改善研修会について(保健領域)

10月30日(水)に、岩泉町立岩泉小学校を会場に、標記研修会を行いました。今年度は、「保健領域の授業改善」をねらいとし、授業者の岩泉町立岩泉小学校 佐藤優也 教諭、支援員の宮古市立鎌ヶ崎小学校 村上貴史 教諭、宮古市立田老第一小学校 佐々木一成 教諭の3名の先生方にご尽力いただきました。「自分事として捉えるために」「養護教諭・栄養教諭との連携」「指導と評価の一体化に向けたポイント」の3つを授業改善の視点として授業づくりを行いました。当日の授業では、小澤明恵 養護教諭、中村恵 栄養教諭と連携し(上写真)、子どもたちに、自分事として捉えさせるための指導の工夫が随所に見られる授業が展開されました。



(研修者の感想より)
 ・子どもたちが最後まで自分事として学ぶ姿が素晴らしかった。手だて、声かけ、養護教諭、栄養教諭との連携、実験やグラフなどの視覚的に分かりやすい教材の準備など、大変参考になりました。
 ・各校の取組や課題を共有できてよかった。いろいろ話しているうちにどんどんアイデアが生まれてきてとても楽しかった。60プラスを軸にしながら、たくさんの先生方とつながることができたので、今日話した内容を学校に戻ったら早速やってみよう。
 ・特に冬場の運動量について話題に上がったが、参考にしたい取組がたくさんあり本校でも実施していきたい。

